

コロキウム2019提言

公衆衛生における医療の役割

深井保健科学研究所

第18回コロキウム「公衆衛生と医療」2019年8月4日(日), 東京

UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)とNCDs予防は、2030年に向けたグローバルな目標(SDGs)である。長寿社会を迎えている日本は、半世紀上の国民皆保険制度の経験を有しSDGs実現に向かった国際貢献が求められている。限られた財源の中で多分野連携と予防医療の推進は不可欠であり、歯科医療・口腔保健の果たす役割が大きい。本コロキウムでは社会保障制度の強化と健康格差是正を踏まえた健康寿命の延伸という観点から以下の提言を行う。

1. エビデンスと多分野連携に基づき保健医療介護サービス提供に関する新しい展開とイノベーションを推進し、その効果に関する研究成果を蓄積する。
2. 人口の高齢化とNCDsおよびフレイルという健康課題に対して、そのリスク構造の観点から個人と集団・地域に対するアプローチを一体的に行うことによって財源の確保と健康格差是正を図る。
3. 国民皆保険制度において予防医療を公衆衛生の一分野とし、その位置づけを強化する。
4. 口腔と全身との関係を踏まえ、歯科医療を公衆衛生における予防医療とする施策を推進する。そして歯科医療機関という既存の社会資源を有効に活かした健康増進施策を推進する。
5. 口腔疾患をはじめとする疾病負担と健康格差の改善は、専門分野の医療施策だけでなく、関連する多分野連携と公衆衛生施策の強化によって図る。
6. 日本の保健医療介護サービス提供体制とその研究成果に係る国際的情報発信を強化する。